

調査報告書(各委員提出用)

委員会名：企画建設常任委員会

報告者：政野 太



視察先：東京都板橋区大山商店街とれたて村	視察日：令和1年10月17日
視察の目的・本市の課題 農産物ならびに農産加工品の販売ルートの新規開拓	
視察で参考となった事項 <ul style="list-style-type: none">・板橋区の人口は57万人。現在も増え続けている。・板橋区の世帯数は31万世帯。・板橋区の年間予算は3,000億円。・板橋区の実質公債比率は平成29年で3.0%。・1日当たりの大山町商店街への買い物客は3万3千人。・2017年に大山駅西地区の未来を考える「30年VISION of OHYAMA」を策定。・商店街と農村漁村との交流による双方の活性化を目指し「とれたて村」を運営。現在全国13市町村と提携している。・月会費43,200円のとれたて村と、1日あたり1万円程度のチャレンジショップがある。	
提言・その他(庄原市の施策にどのように生かすことができるか など) <p>板橋区の現状は上記の通り、本市にとっては羨ましい限りである。しかし、その市場を開放している大山商店街振興組合の取り組みは本市の農産物あるいは加工に携わる人にとっての活路が開ける可能性も秘めている。</p> <p>人口57万人に対して世帯数が31万世帯という事は、1世帯あたりの平均が2名に満たない世帯が多い事から、商品の開発も少量パッケージにするなどの工夫をする必要がある。すでにその試みは、庄原逸品事業でも取り組んでいる事から、それらの事業と一緒にあってまずは、チャレンジショップで販売する検討をすすめてみることを提言する。また、農産物、加工品の販売に留まらず、交流人口を増やすことで本市の活性化に繋がるかどうかとも同時に検討をすることを提言する。</p> <p>その際、以前提携していた鳥取県大山町の提携締結から解消までの取り組みも検証することも忘れてはならない。</p>	

※令和元年10月24日(木)までに議会事務局に提出してください。